



264



# 若竹だより

【巻頭言】

## 夢を形に

—若竹の家庭を作ろう—

園長 野田大燈

「一月往ぬ・二月逃げる・三月去る」と古人は言っていますが、時代や文化が変遷しても真髓を突く言葉は不滅のように思います。

姉妹施設の児童養護施設「亀山学園」は昨年からの改築工事に入っていましたが、多くの方の物心両面に亘るご支援で4月に完成を見ようとしています。

児童養護施設は戦後の戦災孤児を保護する、と言うような経緯から全国的にみると 100 人・200 人と言う大規模な「収容型施設」でしたが、国の方針もあって「普通の生活」を営ませると言う事から、5~6 人の児童と職員がトイレ・バス・寝室・厨房・食堂等が設けられた『家庭』で生活するようになります。

既に子ども達は試験的に生活を体験しているのですが、職員が炊飯準備でお米を洗っていると、白い研ぎ汁を見た子供が「先生、ご飯に牛乳を入れたの？」と聞いたそうです。

笑うに笑えない話です。今までは調理されて配膳されたものしか目にすることがなかったので、厨房でどのように調理していたかを知らないのです。福祉関係ではこれらを「施設病」と言います。

治療優先である若竹学園は今のところ小規模化は求められておりませんが、やがては小規模化となるでしょう。

亀山学園が完成すれば次は若竹学園の増改築工事となります。

平成 6 年開園の若竹学園は、当初 50 名定員の建物を計画していましたが、行政から「今後少子化となるので大きな建物を作ると運営が苦しくなる可能性があるので、当面は 30 名定員で開園しては」と言うアドバイスを頂きました。

20 年を経過して状況判断してみるとアドバイス通り定員 30 名は妥当でした。

それは学園が「治療施設」と言う事もあり、被虐待児や統合失調症、そして発達障害など専門的な対応が求められる児童が大半だからです。

20 幾年を経過し治療施設として必要な建物が家族療法棟であったり、心理治療に必要なスペースと居室の一人部屋や児童がパニックを来たした時に必要なクールダウン室などです。

子ども達にも建設の情報が入っているようで「園長、何時から工事に入るの？」とか「どの場所に建つの？」と興味津々です。

狭い園庭を整理しての増築ですので、園生にも手伝ってもらって「園生全員で建てた学園」にしたいと思っています。

設計士さんの図面が出来上がったら学園廊下の掲示板に張り出そうと思っています。

人間には {夢} が必要です。今年から明年にかけての職員・園生の夢は「学園建設」になればよいと思います。

夫々の夢を現実のものにしていくには努力が必要です。

でも夫々の夢が確固としたものであれば困難を克服して現実のものとなるでしょう。

一つでもいい、夢を現実のものにした経験があれば社会に出てもその自信は崩れることなく自分自身を支えてくれると思います。 —一—

# おもちつき

1 月 28 日、園生、職員みなでお餅つきをしました。



一般家庭では、作られた餅を購入したり、機械で作るようになっていますが学園では今でも昔ながらの石臼と杵で作っています。



蒸されたもち米が石臼に入れられると、すぐにペタンつくと思っ、こねる作業を見ながら驚いている子どももいました。しかし作業自体は慣れたもので、順番について、あんこを入れて丸めるのを上手に手伝ってくれました。

お餅を食べて、今年 1 年も元気に過ごせそうです。

# 書き初め

「一年の計は元旦にあり」と言いますが、今年も子ども達と一緒に書き初めをしました。今年一年も頑張ります！



# うどん作り



1 月 17 日、うどん作りをしました。香川県民と言えば讃岐うどんを作れるようにならないと！と全員総出で、夕食に食べられるうどんを作るために頑張りました。



手でこねて丸めた後、袋に入れて踏みます。塩水でまとめたうどんのタネは、少しふわふわして柔らかめです。「なんか変な感触がする！」と苦手そうにしている子どももいましたが、美味しくてコシ

のあるうどんを作る為、みんなで順番にクルクル回りながら踏みました。踏んでは丸め直し、踏んでは丸め直す作業を 5 回ほど繰り返します。しっかり踏みしめた後は、丸めて少し寝かせ、作業再開です。



再び軽く踏んで伸ばした後、麺棒で均一にのばします。あとは畳んで包丁で切り、うどんにしていきます。少し柔らかくて、引っ張るとのびる生地は、包丁で切るのも至難の技です。苦戦しながら上手に切りました。

その日の夕食は、班ごとに作ったうどんを湯がいて頂き、食べ比べでしっぽくうどんと醤油うどんにして、おなかいっぱい食べました。





# 1 月若竹学級だよ



2016 年となり、3 学期を迎えた各教室には、校長先生が書いてくださった「結」という言葉が新しく掲示に加わりました。児童・生徒も書き初めで新年の抱負を漢字一文字に表現しました。



その他にも、  
「学」…大切なことをもっと学びたいから  
「百」…百点が取れるように  
「整」…心を整えて入試や一年に臨みたい  
「食」…食事から健康になりたい  
など、それぞれの漢字を自分の願いや気持ちを込めて丁寧に書くことができていました。

## 受験は団体戦！

青峰学級では、中学 3 年生がいよいよ私立高校入試に臨みました。冬休み前にはまだ、受験生の自覚がない感じだった 3 年生が一変、きりっとした表情となりました。下級生もその変化を感じ取ったのか、学年関係なく先輩の支えになれるよう配慮して生活できている

ようで、児童・生徒が一体となって志望校合格をめざしています。

また、受験について考えた事のない園生も、高校に進学した自分、これから自分はどんな職業に就くのだろうと、進路についてイメージをふくらませるいい機会となっています。

## 見て触れて自然の芸術

若竹学園から山道を 15 分ほど進めば、香川県内では数少ない滝である「日見ずの滝」に着きます。園生にはよく知られている滝で、毎年寒くなると氷柱を見に行きます。

「凍っとる！凍っとるよ！」と息も荒く、子どもたちは滝にできている氷柱を取って遊んでいました。気温が下がるだけでは簡単に氷柱はできないのだと、学園生は先輩から教えてもらった知恵を伝え合っていました。

木々の葉も落ち、冬を感じる五色台の山中



の滝に、寒さも忘れて美しい自然の造形「氷瀑」を心から愉しんでいるように感じました。



# 農園だより

先月号でもお知らせしていた農園の白菜が大きく育ち、無事に収穫されました。



その日、ちょうど夕食がお鍋だったので、白菜を使って美味しく頂きました。

次はどんな野菜を作ろうか考え中ですが、次に収穫した時にも、厨房で美味しく調理して頂こうと思います。

## お裁縫

学校がお休みの土曜日、「ひまだ〜」と言っていた女の子たちと、お裁縫してみました。

今回のテーマはコースターです。ハギレとフェルトでチクチク縫いました。



もう少し時間があつたので、小さい巾着も作ってみました。上手に出来ました！

# 1行事

- 1 日 初詣
- 1 0 日 図書館
- 1 7 日 うどん作り
- 2 3 日 図書館
- 2 8 日 買物学習

**在籍人数** 平成 28 年 1 月 25 日現在

区 分		県内 (人)	県外 (人)	合計 (人)
男子	小学生	1	5	6
	中学生	6	4	10
	その他	0	0	0
	計	7	9	16
女子	小学生	3	0	3
	中学生	4	2	6
	その他	0	0	0
	計	7	2	9
合計		15	12	25

### 編集後記

本格的に寒くなってきました。雪は降りましたが、積もるほどではありません。一昨年張り切って買い替えたソリが、使われることなくそのまま段ボールに入っています。今年は使える日が来ればいいなあとと思います。(吉田)

### 第 264 発行

〒761-8004 香川県高松市中山町 1501-192  
 T E L 087-882-1000 F A X 087-882-1160  
 ホームページ <http://4on.or.jp/>  
 Eメール wakatake@mail.netwave.or.jp  
 編集兼発行者 若竹学園 編集委員  
 発行責任者 野田 大燈